通　史
女性史セミナー

よりよく生きようとした女たち

―歴史に学ぶ日本女性のあゆみ―

期　　間　2011年10月13日～2012年2月9日（全５回・毎月第２木曜・13時半～15時半）
会　　場　婦選会館（東京都渋谷区代々木２－21－11）
受 講 料　7,000円（全５回。１回毎は1,500円ですが、全回通しが基本です。納入済みの受講料はお返しできません。学生4,000円。市川記念会特別維持員 及び 総合女性史研究会会員は6,000円）。
申込方法　主催宛、裏面の申込用紙にご記入の上、FAX(03-5388-4633)でお申し込みください。またメール(fitikawa@trust.ocn.ne.jp)でも結構です。お払込みは10月５日迄にお願いします。
企画協力　総合女性史研究会（学術会議参加団体）
主　　催　財団法人市川房枝記念会女性と政治センター

第１回・古代「村の刀自・たらちねの母・宮廷の女」▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶2011.10.13

講師　伊集院葉子（専修大学東アジア世界史研究センターリサーチアシスタント）
◆ねらい◆「女に政治・経済はわからない」―よりよく生きようとする女性たちを苛むこの言葉は、未だに死語ではない。しかし、今日に遺された古代の史料は、このような偏見を許さない。十数年に亘る架橋事業を組織する女。労働力不足の中、里山の人々を田仕事に動員する女。政争によって奪われた自身の身分を回復させた女…。古墳時代から平安前期までの史料に添いつつ、不屈だが普通に存在した女性たちの生き方を考えたい。

第2回・中世「ルイス・フロイスが見た―中世の女性たちの生きざま」▶▶▶▶▶▶2011.11.10

講師　西村汎子（白梅学園短期大学名誉教授）
◆ねらい◆ 16 世紀に来日したポルトガル人のルイス・フロイスは、宣教師としてキリスト教を布教するために、日本の政治・風俗・習慣を子細に観察した。とくに男性に劣らず女性の動向にも目を向けた。女性の信仰上の影響力が大きかったからである。今回はフロイスの著述から、当時の風俗・習慣のほか、戦争、宗教弾圧などにさらされた女性たちの惨状と、苦境に立ち向かって生きた女性たちの姿を追いたい。

第３回・近世「近世女性の肖像　思索したあや子・訴訟を起こしたたよ・反対の性を生きたたけ」▶▶▶▶▶▶▶▶▶2011.12.8

講師　長島淳子（国士舘大学非常勤講師/早稲田大学エクステンションセンター講師）
◆ねらい◆ ３人の女性の行動を通して、江戸時代が女性にとってどんな時代であったのかを考える。具体的には、自分の著作の中に、「家」や結婚のあり方に疑問を綴った武家の娘・工藤あや子。レイプされたことに泣き寝入りせず、ただ一人江戸に出て訴訟を起こした農民・たよ。咎めにもかかわらず、幕府制禁の男装を続け、最後に島流しとなった無宿人・たけをとりあげる。

第４回・近代「時代にあらがった女たち」▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶2012.1.12

講師　金子幸子（日本女子大学非常勤講師、元名古屋短期大学教授）
◆ねらい◆ まず初めに、日本の近代は女性たちにとってどういうものだったのかを、おもに法的側面から見ていくこととする。この時代、女性の居場所は“ウチ”とされ、政治参加の道は阻まれていった。これにあらがって女たちは法的権利を求めて立ち上がり、また生活の場では身の上相談などで声をあげはじめた。このような女たちの動きを通して、戦後改革へと至る道を明らかにしていきたいと思う。

第５回・現代「『平等・開発・平和』を求めつづけて」▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶2012.2.9

講師　伊藤康子（元中京女子大学教授）
◆ねらい◆ 1945年敗戦、日本国憲法が制定され、法制も大きく変わった。1975年、現実を変えようと国連の国際婦人年が設定され、既に経済大国だった日本は、「平等・開発・平和」を進展させなければならなかった。このなかで日本女性は、選挙で、集会で、裁判で、住民投票などで、問題提起し、行動し、挫折や成功の経験を蓄積し、安心して子供を産み育てられる社会を求めて、努力を重ねている。